

政治活動だより (修正版)

栄八通信

http://ei-8.info/
第86号

R4年 11月発行



宮本 栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

こんにちは、
宮本です。

最近の活動についてですが
「ボランティア
提案活動中」です。



スーパーや町で会った市民の方に、「最近何しようね？」との質問を受けたり、「栄八通信のなくなったよ」とか言われる。私は、「ボランティア市議みたいなのをされている」と答えている。実際、一週間に20本くらいは、市、杵藤土木事務所や武雄河川事務所等に、事業の進捗状況の確認や今後のスケジュールを尋ね、質問や提案などしている。

また、9月は、佐賀市以西の市の議会傍聴に行き、各地の一般質問や議案質疑の状況を見てきたというか、勉強してきた。

武雄市は、答弁が「これから検討」との答えが多いのに対して、他市町は事業内容や取り組みの状況が外部の者にもわかるような説明。嬉野市では、私たちになじみのある、旧嬉野医療センター跡地活用計画について、新病院の市有

急展開 戸別受信機問題 市の虚偽説明が判明

今回臨時的に栄八通信を出した主な理由は、この防災の戸別受信機の新たな市のウソの説明が、9月議会の江原議員の一般質問の録音を見て判明したこと。それは市が、当時約4億円の防災無線の予算を、議会にかけず決定したことが問題になりました。それに対し、市は、市の顧問弁護士に相談して、「資産の購入でなく、防災のシステム構築の委託料なので、議会にかけなくても良い」との見解を受けたことを理由として説明していました。

今臨時的に栄八通信を出した主な理由は、この防災の戸別受信機の新たな市のウソの説明が、9月議会の江原議員の一般質問の録音を見て判明したこと。また、武雄市は、戸別受信機を設置する時に、貸与契約を交わして、戸別受信機を市の資産として取り扱っていること。そこで私たちは、戸別受信機が主な金額の内容である事業を、名目

員会では令和2年3月時点では、担当者は6月に議会にかけると言っていたこと。また、武雄市は、戸別受信機を設置する時に、貸与契約を交わして、戸別受信機を市の資産として取り扱っていること。そこで私たちは、戸別受信機が主な金額の内容である事業を、名目がシステム構築だからと言って議会にかけないで良いとの指導をしたとされる、市の顧問弁護士の判断は間違っているとの批判をこれまで続けてきて、私自身も以前の栄八通信でも取り上げてきました。現在、市民有志が戸別受信機問

ふるさと納税問題 検査審査申し立てを

今年も年末が近づき、ふるさと納税が活発になるシーズン。なぜそうなるかは、年間の収入がほぼ確定したところで、ふるさと納税を利用するためと思われる。

一方2年前の武雄市の返礼品不履行問題は、約2万人の寄付者及び家庭に、ほぼ泣き寝入りの形で別の品物を送り、武雄市の信頼を失墜させたまま、時が過ぎていく。また、その後の裁判の情報なども発表されることもなく、責任問題はおろか、原因究明さえ本気でされていない、市は何を考えているのかさっぱりない状況。

今回、私が再度この問題に言及するのは、私が市議の時、議会が委託業者の大半商会の百条委員会での証言拒否で検査に告発したが、今年の春ごろ、検査が不起訴との発表をした。その理由が、証拠不十分との話だが、現に証言は拒否しているし、正しく答えるという宣誓すら拒否している。

これは、委員会にいた議員や職員に聞けばわかることで、証拠不十分という理由に疑問が残る。法では検査審査会への不服申し立てができるが、当初の告発者である武雄市議会しかできないので、今の市議会に早期に申し立てをして真相を解明してもらいたい。

【追伸】 大平商会の所在地とした北方町の建設会社に、市の職員が一度も言ったことが無いとのことや、私や別の議員が現地確認のために行っただけに、当時の建設会社の社長から、街宣車をまわすぞ等恫喝を受けたし、事務所の実体はなく、ポストだけあるというところは、疑惑も多くあり実体解明が必要と思う。

六角川の水害問題 抜本的対策どうなる？

なんとと言っても、水害対策の柱は、国交省の出先の武雄河川事務所である。令和元年8月の大水害を受けて、「六角川水系緊急治水対策プロジェクト」を六角川本川の武雄市・大町・白石・江北の各町に合流する牛津川の小城市、多久市の6市町や県などを集めて協議会で話し合われている。

第一回は令和3年の12月で、令和4年の2月、3月、6月の合計4回が開催されている。ポイントを簡単に伝えると、6月までに各関係者が緊急に対策を明確にして行動に移すこと。6月末までにプロジェクト案を公表することに合意した。また、開発を制限する、「特定都市河川浸水被害対策法」の紹介や説明があつていて、武雄市に影響も。

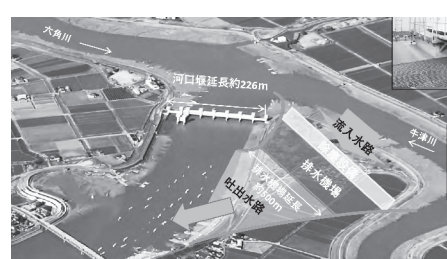
特に今回私が伝えたいのは、委員から提案された抜本的対策である4案についての検討報告が示されている所である。

- ①「河口部排水ポンプ(案)」
これは、六角川下流の河口堰を大雨の時閉めて、ポンプで排水する案で、概算費用 約3100億円
- ②「大規模引提(案)」
六角川の中・上流部15kmで、200m幅堤防幅を拡大 約2900億円
- ③「内水導水路(案)」
上流から地下に12km、直径11mの管を設置し流す。約5400億円
- ④「鉢巻水路(案)」
六角川の北側の山手に新たに水路を作って六角川に入れずに下流へ別ルートで流す。約3600億円

結局どの案も水害での激特事業すら約350億円程度で、この試算は、逆にこの4案は実現不可能



六角川本川の唯一の抜本的対策の分水路等は、着手してもらいたい。



河口部排水ポンプ案 (3100億円と非現実的だが) ポンプを作らず門の開閉のみでも被害の軽減が可能では。

市議として主に取り組んだ事を 「市民の方からどんな活動を してきたか」と問われたので」紹介します

【武雄衛生処理場の入札】

これは、コメリの北に旧武雄市と山内町で平成12年に建設した。し尿と合併浄化槽汚泥を処理する施設で、ポイントは、建設予定額約40億円を約27億円で建設したこと。当時入札が、日量100tの施設の建設実績のある業者に限られていた。

そこを能力ある会社の一般入札にして門戸を拡げて10億円軽減。

【水道料金日本一からの脱却】

高料金の原因は、水確保のためダムなどの設備投資だった。当時湖ノ尾第一浄水場中心で不足分を若木第二や、西部広域水道に頼る。対策は、使わなくても支払いの必要な西部の水を優先し、最後は20億必要とされた湖ノ尾浄水場の建て替えを止めて支出を抑制。また、高利子起債を繰り上げ償還して脱却。

【鉄道高架と区画整理】

武雄町内の線路での分断の解消のために鉄道の高架化を計画したが、当初武雄温泉駅付近から武雄温泉街までの約30ヘクタールと広く、身の丈に合わないとして停滞していた。紆余曲折があり、線路上を上げるだけの必要な用地10ヘクタールの縮小分割案を生み出し、建設が実現することになり、諫早と違い、新・在来高架に。

【武雄温泉新館の改築】

当時、新館は浴室の屋根がつぶれる寸前まで来ていた。市の文化課に対応を何度も意見。しかし、県の文化財指定だったため、県に補助する制度が無いとのやり取り何十回。県にも新館が倒壊したら県の責任は問われると意見も。結局、国の文化財に昇格させ、所有者も負担分を出してもらい、新館の復元となった。

【市営浄化槽の整備着手】

旧武雄市は、ダム上流部に農排、市街地一部を公共下水道整備としていた。しかし、市全体の水洗化率は県内低水準。そこで、市営浄化槽が一戸当たり、100万円の整備で、公共下水道が600万円なので、財政的にも市営浄化槽に着手を提案。市は、浄化槽の耐用年数が短いとの抗弁だが、実際は長く使用可能であるという状況を示し、着手した。

【北方のバイパス整備提案】

合併以前から、北方大崎の交通渋滞は課題だった。合併後、北方の議員さんから、用地の一部は国が取得していると聞き提案。また、北方中央から逆Z型になるので、ダイレックス横への連結道を提案したが、市は幼稚園や旧長崎街道のルートを選択したので、完成まではまだ時間がかかる状況。

私が提案しても実現できず 今後も残った市の課題

1 ふるさと納税問題

まずは、7800万円を本気で取り戻してほしいこと。これは委託業者の大半商會に、前払い金として支払っていたうちの、業務をしていない分、丸々市費の損失。また市の職員がクレーム対応や後始末処理をした分の損害金がある。市もそれがいくらになるのか、金額を「出す出す。」と言いつつ、スルスル時が過ぎていて、これまた本気に請求する気があるのか疑問に思う。

2 新体育館の問題

私は今でも新体育館の周りに、元の野球場の土手スタンドを残す設計にスペースの無駄使いと思っっている。この工事の間に土手の撤去をすべきと思う。すると駐車スペースが取れて、旧体育館後に、天神崎のテニスコートを移転する余地が生まれてくる。

3 学校二学期制を 三学期制に戻して

合併前の平成16年頃、完全週休2日制になり、授業時間の確保が難しく、東北の一部の学校で行われていた二学期制を先進的にとりたいと教育委員会からの打診。私も子供のためになるなら、二学期制で始業式・終業式一回無くして授業時間を確保することは、日本の伝統をなくしても必要と賛同した。

4 児童クラブの整備

もはや、放課後の小学生の居場所の中心に児童クラブがある。数年前までは、有利な県の補助金を活用して学校校舎とは別館での児童クラブの専用施設が、小規模校では体育館のホワイエを利用する形で整備されてきた。

5 公園整備計画の 策定

今、公園の一元管理をやつと始めるとして公園課ができたが、現実には、観光課、都市計画課、スポーツ課、競輪課などに分かれている。以前は、SL公園や、山内の中央公園、北方町の四季が丘公園等利用者も多かったし、町の人が集まる拠点でもあった。

6 『下水道料金県内 高い』の低減を

以前から指摘をしている下水道使用料金は、県内10市中最も高い料金になっている。合併時の統一料金の議論の中で、施設の維持管理費分を受益者に負担してもらおうとの他の議員の提案から、現在の金額が設定されたように思う。

7 ご意見コーナーの 公開を

新野球場の話し合い無き場所決まりや議会にかけず進めた戸別受信機問題など、大型事業の推進に不透明で市民参加を軽視する市政。その中で、特に変だと感じるのが、市のホームページにある、市民の「ご意見・ご要望」のコーナーの意見や回答が、原則公開しますと表示しているにもかかわらず、2018年以降、ずっと非公開になっていること。

8 編集後記

今回、市民の方から何しようねとの声かけが多く、それにいっぺんに応えることと、戸別受信機予算を議会にかけなかった件で市側より、顧問弁護士の意見に従ったとの説明を受けていました。

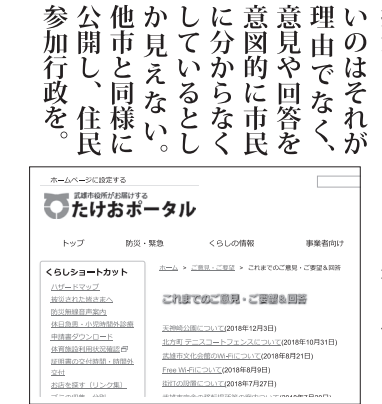
9 今後の政治活動や方針について

市民の方に活動の場を与えてもらって、初めて仕事が出来たことに対し、心より感謝いたします。

今、公園の一元管理をやつと始めるとして公園課ができたが、現実には、観光課、都市計画課、スポーツ課、競輪課などに分かれている。以前は、SL公園や、山内の中央公園、北方町の四季が丘公園等利用者も多かったし、町の人が集まる拠点でもあった。

新野球場の話し合い無き場所決まりや議会にかけず進めた戸別受信機問題など、大型事業の推進に不透明で市民参加を軽視する市政。その中で、特に変だと感じるのが、市のホームページにある、市民の「ご意見・ご要望」のコーナーの意見や回答が、原則公開しますと表示しているにもかかわらず、2018年以降、ずっと非公開になっていること。

今回、市民の方から何しようねとの声かけが多く、それにいっぺんに応えることと、戸別受信機予算を議会にかけなかった件で市側より、顧問弁護士の意見に従ったとの説明を受けていました。



市民の方に活動の場を与えてもらって、初めて仕事が出来たことに対し、心より感謝いたします。